

2 人口動態統計に基づく自殺の状況

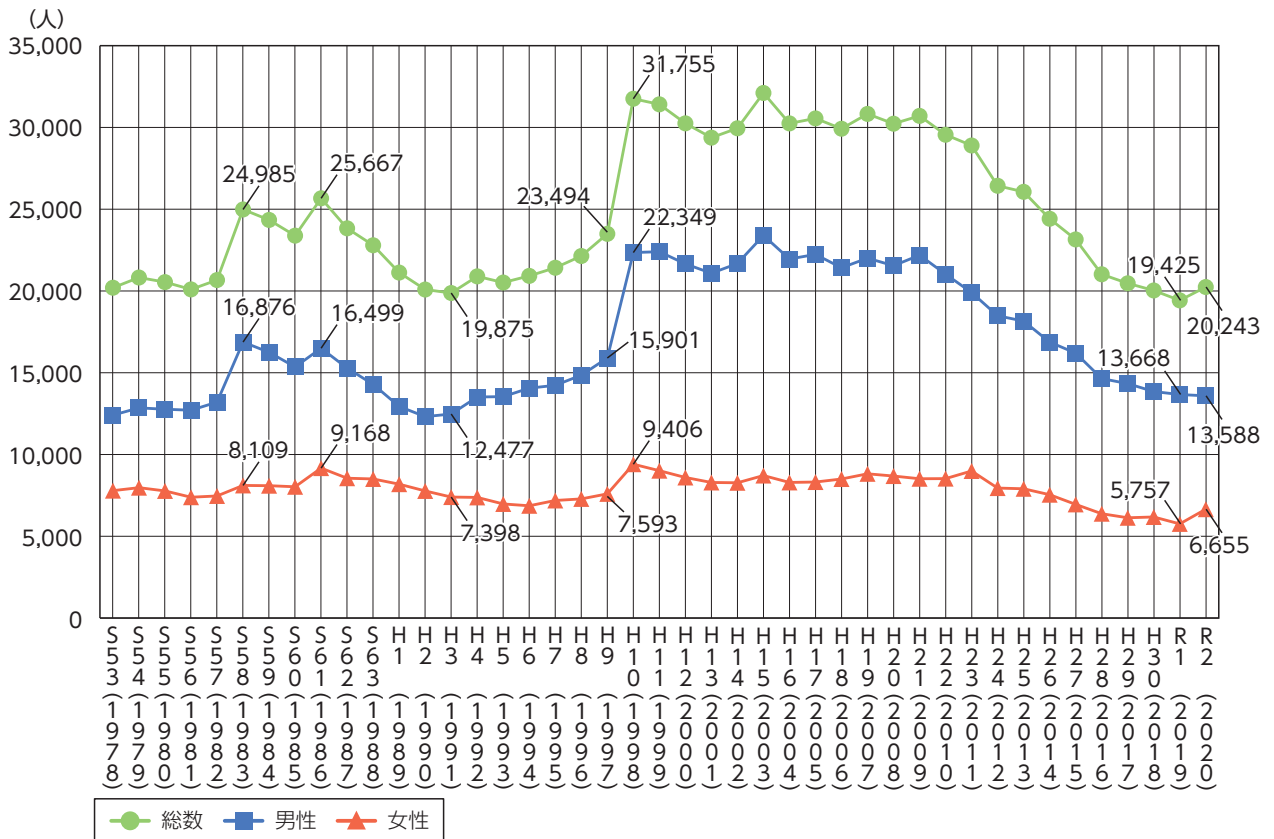
(1) 人口動態統計に基づく自殺者数の推移

厚生労働省の人口動態統計は、自殺統計とは異なる方法で自殺の状況を集計しており、似た推移を示すものの、数値が違うことに留意が必要である¹。

人口動態統計による自殺者数の推移をみると、昭和58年に2万4,985人に増加し、昭和61年に2万5,667人となった後、平成3年に

1万9,875人まで減少した。平成10年に前年の2万3,494人から8,261人増加の3万1,755人となって以降3万人前後で推移していたが、平成22年以降は減少を続け、令和元年は1万9,425人となった。しかし、令和2年は女性が前年から898人と大きく増加したことにより、20,243人と11年ぶりの増加となった（第1-9図）。

第1-9図 自殺者数の推移（人口動態統計）



資料：厚生労働省「人口動態統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

1 参考：厚生労働省「人口動態統計」と警察庁「自殺統計」の違い

- ① 日本における外国人の取扱いの差異：「自殺統計」は、日本における日本人及び日本における外国人の自殺者数としているのに対し、「人口動態統計」は日本における日本人のみの自殺者数としている。
- ② 調査時点の差異：「自殺統計」は、捜査等により自殺であると判明した時点で、自殺統計原票を作成し計上しているのに対し、「人口動態統計」は自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明のときは原因不明の死亡等で処理しており、後日原因が判明して死亡診断書等の作成者から自殺の旨訂正報告があった場合は、遡って自殺に計上している。
- ③ 計上地点の差異：「自殺統計」は、発見地に計上しているのに対して、「人口動態統計」は、住所地に計上している。

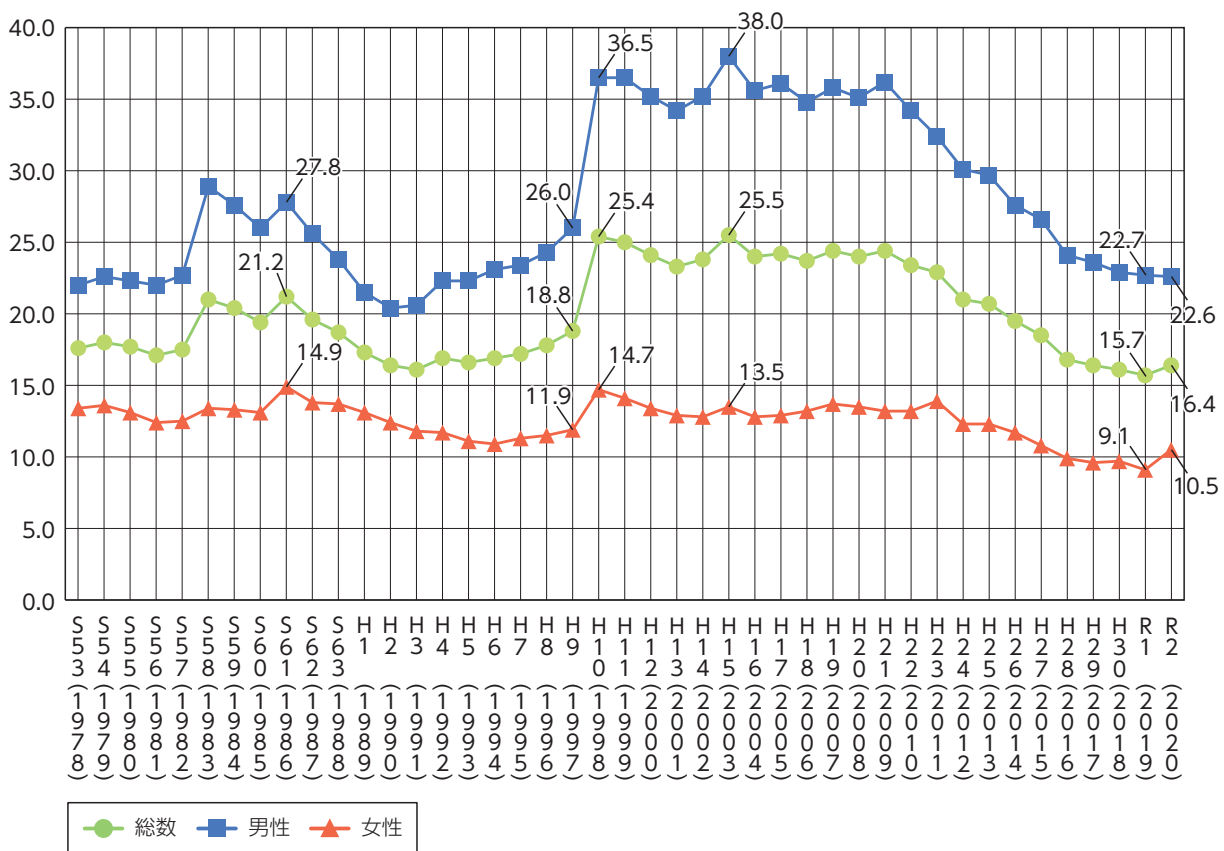
(2) 人口動態統計に基づく自殺死亡率の推移

自殺死亡率の推移を人口動態統計でみると、昭和61年の21.2のピークから低下し、昭和63年から平成9年までは16.0から19.0の間で推移していた。平成10年は前年の18.8から25.4に急上昇し、以後平成15年の25.5をピークとして高い水準が続いていたが、平成22年以降は低下傾向となった。令和元年は15.7と

なったが、令和2年は上昇に転じ16.4となった。

男女別にみると、男性の自殺死亡率は女性の約2倍となっている。男性は平成15年に38.0とピークを迎えてからその後大きく減少し、令和2年は22.6となった。女性は平成10年に14.7でピークとなり、その後緩やかに減少して令和元年は9.1となったが、令和2年に上昇し10.5となった（第1-10図）。

第1-10図 自殺死亡率の推移（人口動態統計）



第1-11表 令和2年の死因順位別にみた年齢階級及び性別の死亡数、死亡率²、構成割合

総数

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	自殺	122	2.3	28.6	悪性新生物<腫瘍>	82	1.5	19.2	不慮の事故	53	1.0	12.4
15～19歳	自殺	641	11.4	50.8	不慮の事故	230	4.1	18.2	悪性新生物<腫瘍>	110	2.0	8.7
20～24歳	自殺	1,243	21.0	57.0	不慮の事故	286	4.8	13.1	悪性新生物<腫瘍>	152	2.6	7.0
25～29歳	自殺	1,172	19.7	52.1	悪性新生物<腫瘍>	235	3.9	10.5	不慮の事故	217	3.6	9.7
30～34歳	自殺	1,192	18.7	41.1	悪性新生物<腫瘍>	495	7.8	17.1	不慮の事故	250	3.9	8.6
35～39歳	自殺	1,323	18.3	30.1	悪性新生物<腫瘍>	1,012	14.0	23.0	心疾患	368	5.1	8.4
40～44歳	悪性新生物<腫瘍>	2,140	25.9	27.9	自殺	1,578	19.1	20.6	心疾患	859	10.4	11.2
45～49歳	悪性新生物<腫瘍>	4,552	47.0	32.3	自殺	1,844	19.1	13.1	心疾患	1,729	17.9	12.3
50～54歳	悪性新生物<腫瘍>	7,263	84.8	36.7	心疾患	2,578	30.1	13.0	自殺	1,746	20.4	8.8
55～59歳	悪性新生物<腫瘍>	11,457	146.7	41.6	心疾患	3,594	46.0	13.1	脳血管疾患	2,007	25.7	7.3
60～64歳	悪性新生物<腫瘍>	18,254	248.3	45.1	心疾患	4,985	67.8	12.3	脳血管疾患	2,783	37.9	6.9

男

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	自殺	64	2.3	26.0	悪性新生物<腫瘍>	40	1.5	16.3	不慮の事故	35	1.3	14.2
15～19歳	自殺	397	13.8	48.7	不慮の事故	177	6.1	21.7	悪性新生物<腫瘍>	69	2.4	8.5
20～24歳	自殺	829	27.5	55.8	不慮の事故	229	7.6	15.4	悪性新生物<腫瘍>	97	3.2	6.5
25～29歳	自殺	787	25.9	52.8	不慮の事故	161	5.3	10.8	悪性新生物<腫瘍>	138	4.5	9.3
30～34歳	自殺	859	26.5	43.8	悪性新生物<腫瘍>	232	7.2	11.8	不慮の事故	201	6.2	10.2
35～39歳	自殺	934	25.4	33.8	悪性新生物<腫瘍>	406	11.0	14.7	心疾患	277	7.5	10.0
40～44歳	自殺	1,130	26.9	23.4	悪性新生物<腫瘍>	852	20.3	17.7	心疾患	662	15.7	13.7
45～49歳	悪性新生物<腫瘍>	1,947	39.6	21.9	心疾患	1,407	28.6	15.8	自殺	1,262	25.7	14.2
50～54歳	悪性新生物<腫瘍>	3,421	79.0	27.0	心疾患	2,103	48.6	16.6	自殺	1,201	27.7	9.5
55～59歳	悪性新生物<腫瘍>	6,241	159.5	33.7	心疾患	3,014	77.0	16.3	脳血管疾患	1,392	35.6	7.5
60～64歳	悪性新生物<腫瘍>	11,224	308.4	40.0	心疾患	3,993	109.7	14.2	脳血管疾患	1,962	53.9	7.0

女

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	自殺	58	2.2	32.2	悪性新生物<腫瘍>	42	1.6	23.3	不慮の事故	18	0.7	10.0
15～19歳	自殺	244	8.9	54.7	不慮の事故	53	1.9	11.9	悪性新生物<腫瘍>	41	1.5	9.2
20～24歳	自殺	414	14.3	59.6	不慮の事故	57	2.0	8.2	悪性新生物<腫瘍>	55	1.9	7.9
25～29歳	自殺	385	13.2	50.9	悪性新生物<腫瘍>	97	3.3	12.8	不慮の事故	56	1.9	7.4
30～34歳	自殺	333	10.7	35.4	悪性新生物<腫瘍>	263	8.4	27.9	不慮の事故	49	1.6	5.2
35～39歳	悪性新生物<腫瘍>	606	17.1	37.1	自殺	389	11.0	23.8	心疾患	91	2.6	5.6
40～44歳	悪性新生物<腫瘍>	1,288	31.7	45.1	自殺	448	11.0	15.7	心疾患, 脳血管疾患	197	4.9	6.9
45～49歳	悪性新生物<腫瘍>	2,605	54.7	49.9	自殺	582	12.2	11.2	脳血管疾患	439	9.2	8.4
50～54歳	悪性新生物<腫瘍>	3,842	90.6	53.9	脳血管疾患	594	14.0	8.3	自殺	545	12.9	7.6
55～59歳	悪性新生物<腫瘍>	5,216	133.9	57.8	脳血管疾患	615	15.8	6.8	心疾患	580	14.9	6.4
60～64歳	悪性新生物<腫瘍>	7,030	189.3	56.4	心疾患	992	26.7	8.0	脳血管疾患	821	22.1	6.6

注) 構成割合は、それぞれの年齢階級別死亡数を100とした場合の割合である。

資料：厚生労働省「人口動態統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

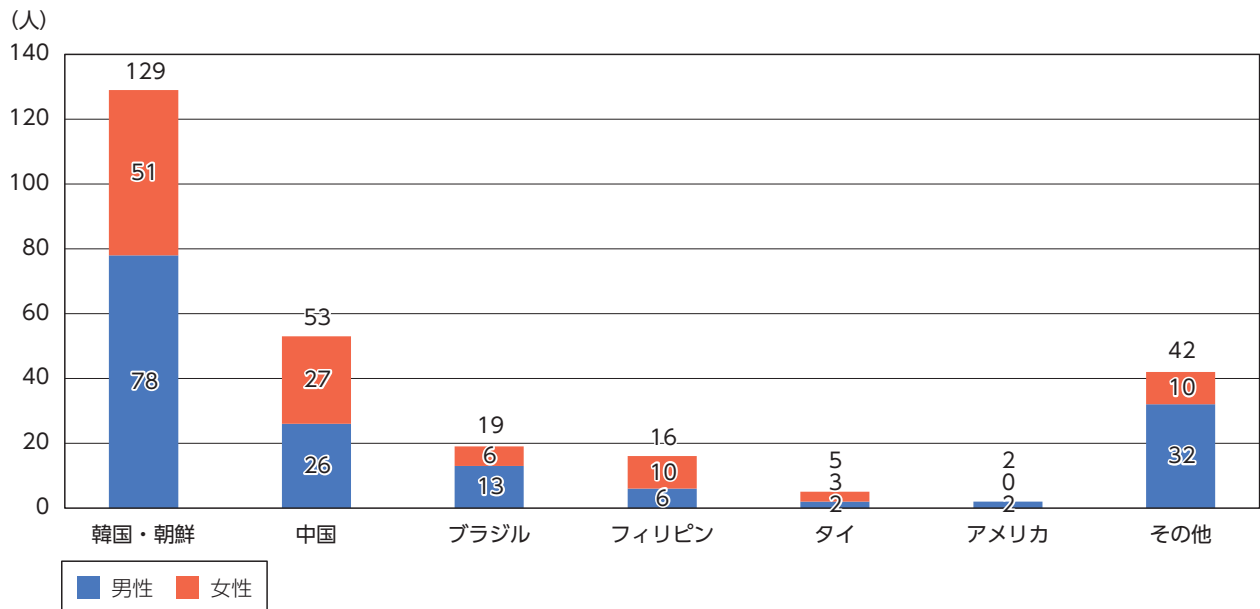
2 「死亡率」とは、人口10万人当たりの死亡数をいう。また、死因順位の分類は人口動態統計と同様、死因简单分類表を用いた。

(4) 日本における外国人の自殺者数

人口動態統計によると、令和2年の国内における外国人の自殺者数は266人であった。国籍の内訳では「韓国・朝鮮」が129人で全

体の48.5%を占めており、次いで「中国」(53人)、「ブラジル」(19人)が多くなっていた(第1-12図)。

第1-12図 令和2年の日本における外国人の自殺者数



資料：厚生労働省「人口動態統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成